

◆「新しい川崎」メール版◆

－2026年4月14日第224号－

<目次>

● 住民説明はあるが、住民合意はない～西加瀬物流倉庫建設～

◆ 川崎市の上水道料金の値上げの動きが本格化

★ お知らせコーナー

① ～5/10 川崎平和館「川崎大空襲記録展」戦時下の市民生活と川崎大空襲

② 4/17～ 中原空襲展

③ 『4・19 国会正門前大行動』

④ 4/26 ゆめシネマ上映会「タイムグラバあちゃん」

⑤ 4/29 シンポジウム 南武線のワンマン化で何が起きているか

⑥ 5/16 #チェンジ川崎 講演と交流のつどい「森や街路樹の大事な役割」

★ 編集後記

● 住民説明はあるが、住民合意はない～西加瀬物流倉庫建設～

4月10日の衆議院国土交通委員会で、物流効率化法改正案の審議があり、日本共産党の畑野君枝議員が、西加瀬の物流倉庫での住民合意の大切さを大臣に問い、「地域住民の理解を得ることが重要だ」との重要な答弁がありました。

西加瀬の物流倉庫建設をめぐる事業者大和ハウスと地域住民の対立は、6年間も続いています。

地域住民240名は、巨大物流倉庫の稼働にともなう騒音、振動、交通渋滞、交通事故などを軽減し、受忍できるまで計画の変更を求めて、神奈川県公害紛争調停に申請をしました。

しかし、大和ハウスは、「地域住民に対し40回以上の説明会を実施し、住民の要望も取り入れた」と主張し、一方的に「調停」を打ち切りました。

現在、計画の遅れを取り戻すべく急ピッチで建設工事を強行しています。

以下は、録画の聞き取メモですが、質疑の内容を速報します。

<住民理解、住民との合意をめぐる質疑>

【畑野議員】

次に、中継輸送施設の整備にあたり、地域住民の理解と納得について伺います。
今回の法案の例として、京都府城陽市で三菱地所が手掛けた次世代物流拠点を上げています。

私は現地視察で住民とも懇談しましたが、住民からは建設についての不安の声が寄せられました。

三菱地所など事業者の説明に、住民は納得されていません。

今回の改正法案には、住民合意の規定はありませんが、中継輸送設備を整備するには、住民合意が必要ではないかと思えます。

どうやって合意を得るのかを大臣に伺います。

【金子国交省大臣】

円滑な中継輸送施設の整備にあたっては、基本的には地元のニーズや実態を理解している地方自治体と民間事業者が連携して、関係する地域住民の理解を得ることが大変重要です。

国土交通省としても取り組み事例の周知を図ることで地域住民の理解を促していきます。

【畑野議員】

住民の理解を求めるために説明会が行われる、それは当然だが、実態は住民が理解をするような説明会にはなっていない。

例えば、中継物流施設ではないが、川崎市の大和ハウスによる物流倉庫建設では、これも現地で住民からお話を伺いましたが、住民の理解なしに強引に計画が進められようとしている実態があるわけです。

ですから、住民合意というのは、民間が責任を持つということではだめだと、私は思います。

国が今回、こうゆう改正法案を作るのであれば、住民合意はマスト（最重要）だと思います。

大手のディベロッパーなど大企業の利益優先にならないようにしていく必要があるということ厳しく指摘しておきますが、大臣のお考えは。

【金子大臣】

民間事業者のみで、このこと（施設整備）をやれというわけではなく、やはり地方自治体と民間事業者が連携してやることのでございますので、一方的にやるというよりは、地方自治体と民間事業者が連携をしてやることを国がしっかり支援をしていくことのでございます。

最終的には、地域住民の理解を得ることが重要だということは、我々も肝に銘じております。

※今回の畑野議員に対する国交省大臣の答弁を大和ハウスはどう受け止めるのか、今後注目です。

今回、明らかになったのは、住民説明と住民の理解は別物だということです。そして、現在も、物流倉庫建設に対する住民の理解はできていません。

市古博一（西加瀬巨大物流倉庫を考える住民の会事務局）

◆ 川崎市の上水道料金の値上げの動きが本格化

<2026年現在の最新状況>

川崎市の水道料金は、1995年以来、約30年間、下水道料金は、2004年度以来、約20年間、値上げなしで維持されてきました。

しかし、2026年2月、川崎市上下水道経営審議委員会は川崎市に対して「水道料金36%、下水道料金37%値上げ」という大幅な値上げを求める答申を行いました。

答申を受けた川崎市の動きは、2027年度（令和9年度）からの実施を目指し、2026年9月の議会に条例案を提出し、9月議会に条例改定案（料金値上げ案）を提案し、決定する方向です。

<答申の概要>

【値上げの理由】

- ① 大口利用者の水需要の減少による収入減
- ② 物価高騰による事業費の増加
- ③ 上下水道管路や、処理場・ポンプ場などインフラの老朽化対策の増加
- ④ 大口使用者の負担を増やすことにより、生活用水・排水が低廉になる制度

【あるべき料金・使用料制度】

- ① 口径別料金制への移行
- ② 基本水量の廃止または引き下げ
- ③ 累進料金制度の緩和
- ④ 基本料金（使用料）の割合の検討

<水道料金の値上げに対して市民は（その1）>

2025年9月に「上下水道料金の値上げを防ぐため、川崎市上下水道事業経営審議委員会に市民意見を届けることを求める請願」を「かわさきの安全でおいしい水道水を守る会」が、3,538名の署名を集めて提出しました。

これは、審議委員会での値上げの動きをいち早くキャッチした市民からの呼びかけで始まった取り組みでした。

請願の趣旨では、「審議会での論議が、これまでの少量利用者である市民の生活に負担をかけないという理念を覆し、市民も大口利用者も均等に上下水道の料金をかけるため、一般家庭には値上げが必然となる料金制度にする。」と批判をしています。

そして、「水需要を抑制して省資源化を図るという観点からも広く導入されている大口需要者の料金を高くする現行の逡増型料金体系を変更するのは反対です。

市民はこの物価高騰の折、上下水道料金の大幅値上げを容認できるものではありません。」と値上げ反対を表明しました。

そのうえで、「私たちは単に値上げをするのではなく、高価で水質の悪い神奈川県内広域水道企業団との契約水量の減量、自己水源である生田浄水場再整備及び一般会計からの繰入れの増額など、経営の全体を見渡した検討で、健全な経営を行う上下水道事業にするべきものと考えます。」と市民側からの提案を行いました。

しかし、この請願は、昨年11月13日の環境委員会で「不採択」となりました。

<水道料金の値上げに対して市民は（その2）>

水道料金の値上げは、月額 1,500 円前後の負担増（3 人家族の平均的なケース）になる可能性が非常に高まっています。

こんな大問題を、市民の十分な理解の場を作らずに進めることは許されません。

市内各地での市民説明会の開催を、川崎市に強く求めていきましょう。（I）

★ お知らせコーナー

① 川崎平和館「川崎大空襲記録展」戦時下の市民生活と川崎大空襲

3/7～5/10 まで

川崎市平和館

主催 川崎市平和館

入場無料

② 中原空襲展

4/17～22

中原市民館 1 階ギャラリー

主催 川崎中原の空襲・戦災を記録する会

入場無料

③ 『4・19 国会正門前大行動』

4/19(日)14 時から

共催：戦争させない・9 条壊すな！総がかり行動実行委員会

／9 条改憲 NO！全国市民アクション

[サイトリンク](#)

※4 月 19 日に予定していた川崎民主市政をつくる会のタウンミーティングは 5 月に延期します。

④ ゆめシネマ上映会「タイマグラばあちゃん」

4/26 ①9 時 ②12 時 ③15 時

かわさきゆめホール

岩手県のほぼ真ん中に位置する早池峰山の麓に戦後、“タイマグラ”と呼ばれる小さな開拓地がつくられ 10 軒あまりの農家が入植した。

しかし、東京オリンピックの頃までにはほとんどの家が去り、残ったのは向田久米蔵さ

ん、マサヨさんの夫婦二人だけだ。そして。

[予告動画](#)

[詳しくはこちら](#)

⑤ シンポジウム 南武線のワンマン化で何が起きているか

4/29(水祝) 14時

川崎市総合自治会館

南武線のワンマン化の中止を求める川崎市民連絡会

連絡先 赤石(090-5301-5091)

[xリンク](#)

⑥ #チェンジ川崎 講演と交流のつどい

「森や街路樹の大事な役割」

5/16 (土) 18:30~20:50

会場 総合自治会館大会議室

お話 加藤顕(あきら)さん(千葉大学大学院准教授)

報告 等々力緑地を守る運動にとりくんで/等々力緑地を守る会

資料代 300円

主催 川崎民主市政をつくる会

連絡先 市古博一(090-7830-8030)

★編集後記

上下水道料金値上げをめぐる

今週号の第2記事は「1995年以来、約30年間値上げなしで維持されてきた水道料金の大幅値上げ」を報じています。

それでは、1995年に、どんな経過があったのでしょうか。

1999年に発刊された「共産党議員団奮戦記」という本があります。

1995年から4年間の共産党議員団のまさに奮戦の記録です。

その11章「上下水道料金の値上げ許さず」に、当時の川崎市議会が、高橋市長(当時)が提案した25%の値上げ案の審議をめぐる大紛糾した経過が記載されています。

値上げ案は、共産党市議団の政策提起と奮闘と市民運動の大きな力で、6月市議会では採決不能に追い込み、8月の臨時会、9月市議会と何回も深夜に及ぶ100日以上たた

かいとなり、この間の市議会傍聴者は延べにして、2千人を超えたと記載されています。

同書では、市民の活動も記載されています。

市民運動連絡会が中心となって、40団体、4万人を超す反対陳情署名を提出。反対運動の中心は、クリーニング、浴場、中華料理など業界団体や、さまざまな市民運動団体でした。

連日の議会傍聴などの力で、自民党・社会党（当時）を中心とする「オール与党」にも動揺が広がりました。

値上げ案は、結局、強行採決されましたが、水道事業への大きな改善が実施され、それ以後今日までの値上げなしを続けることができたのでしょう。

1995年の大運動のおかげで、30年間、川崎の水で「ぬるま湯」につかっていた市民に対し、1995年の値上げ(25%)を大きく上回る超値上げ案が、こっそりと提案されていたのです。

2026年4月現在で、多くの市民はこの値上げ案を知りません。

また、知ったとしても市からの一方的な情報だけでは、「この物価高騰の時代だから仕方がない。」とか「町中で耐震性の下水管に変える工事をよく見かける。安心して使えるようになるならいいか。」などと早々に納得してしまうかもしれません。

答申案への疑問を市民が当局にぶつけ、「値上げやむなし」なのか「値上げしなくてもすむ対案がある」のかを十分に話し合うことが必要です。

さっそく、川崎民主市政をつくる会の事務局に、「条例案を議会に提案する前に、市内各地で市民への説明会を開催し、意見を聞いてください。決定の時期をもっと後に延ばして、市民の意見を取り入れるようにしてください。」という趣旨の陳情署名を始めたいという呼びかけが届いています。

1995年に市民大運動に負けない、2026年市民運動を展開できるかどうか、試されています。(I)

☆☆チェンジかわさき！☆☆

川崎民主市政をつくる会

〒211-0011 中原区下沼部 1880

お問い合わせ

mailmag@newkawasaki.jp

公式ホームページ

<https://newkawasaki.jp>

☆☆チェンジかわさき!☆☆